

日本の天然と國民性

文學博士

石橋 五郎

一國の國民性なるものは如何にして生成するかと云ふに、最初に考へらるべきものは各國民が原始以來夫々種族的特徴を有して居たのであるまいかと云ふことである。しかし、各民族各種族が原始時代に於て今日の如き國民性の根本性情を持つて居つた、と決定するには稍々躊躇しないわけにはゆかない。

たとへば、日本人は手工に巧みだと謂はれて居るが、これが原始以來の特色である、とは、斷言すべきでないのである。我國の古墳等から出る古製作品を見ても、我が國民は上代から特に手工に巧であつたとは思へない、佛蘭西等にある穴居の壁畫などの方が却て巧である、正倉院の御物など見ても最も古き上代の作品としては見るべきものは殆どなく皆漢土の影響を受けし後の製作品である。

これは、僅かに一二の例であるが、原始時代の性情が國民性に就いて基礎的に、さまで重要視せるべきものでない、といふことは感ぜざるを得ない。また實際原始時代の性情といふものは今に於ては知ることは困難である。

然らば、國民性の生成に重大なる關係を有するものは何か、と言へば、國民の長き生活に於ける周圍よりの影響である。即ち、環境の影響こそ、最も有力なる原因でなければならぬと思ふ。

環境の影響には、二つある。一は社會的環境の影響、一は天然的環境の影響である。

社會的環境の影響とは、一の社會を成すにあつて、その社會上に現はれたる制度、習慣よりおのづから受ける影響、及び他民族との接觸により受けたる影響であつて、天然環境の影響とは、一定の天然國土に住する民族が、その國土の天然より受ける影響である。

右の内社會的影響の方は暫らく措き——今茲に述べんとする所は此の第二の天然環境の影響であつて、我國の夫が如何に國民性に作用したかと云ふことに就いて、卑見を述ぶるのである。

二

「山川よく英雄を出す」とか、また、「山東は相を出し、山西は將を出す」と支那人の唱へたるが如く、土地は住民に影響して、おのずから特性づけ、惹いて、國民は風土によつて、おのづから國民性と云ふものをつくりなすのである。

しかし、人の思想が天然的環境より影響を受ける、といふ考は、これまでは、常識的なる蓋然的説明に過ぎなかつたのであるが、近來に及んで、實驗心理學的研究、及び人類學的研究の結果、科學的に證明せらるるにいたつた。

實驗心理學的研究は、天然より受くる人間心理の影響を、其の顔面筋肉の變化や、脈搏の變調、動物電氣の感應等によつて研究するのであつて、數年前、ドイツのヘルバツハと云ふ心理學者は「地的心理現象」なる書を著はして、人心と其の外圍の天然との關係を實驗心理學的に證明したのである。人類學的研究は、先づ人体測定學の上に立つて世界各地にある人類形体の異同、頭蓋骨の差異を知り之により更に各種族の性情まで研究を擴充するのである。是も數年前アメリカ學界の報告であるが、ポアスと云ふ人類學者の研究によれば米國へ移住し來るヨーロッパの各國よりの移民は數代を経ると、其の身長及び頭蓋骨に變化を及ぼす、即ち身長は稍高くなり、頭蓋骨は稍細長くなると云ふて居る。

何故にしか變化するか、と言へば、その原因とするところは、一に國土の變化故と認められた而して此の外形の變化はその性情の變化をも伴ひ殊に頭蓋骨の形は性情と密接の關係あるものであるから此の人類學的研究によりて、亦國民性に對する天然國土の影響を論ずることが出来るのである。兎に角今迄は推測的に考へられて居た天然と人心との關係が、今は科學的實證的に考へらるゝやうになつたのである。

三

人間の性情に及ぼす天然環境の影響は、もはや常識的説明の時代を脱して科學的研究によつて確認せらるゝに至つたが、果して然らば、我が日本の天然と國民性との關係は如何であらうか。私は我が國の國

民性に影響を與へし重なる天然的環境は、國土の氣候と地形とに互ると信するから茲に此の二つに就て述べる。

日本の氣候の第一の特色は世界の各國に比して、稀なる變化に富むと云ふことである。

國土は極めて細長く、沖繩までを限つて計つて見ても、南北實に八百里、其所に大小の島々は相つらなつて、國內の氣候は極めて變化に富むのである。支那及び南米の一二國は日本よりも南北に長く連つて居るか他の歐米文明諸國で日本ほど南北に長い國は世界に類例を見ない。従つて、氣候變化に就いても我が國ほどの變化に富む國はないのである。

そして、更に亞細亞大陸を近傍に有すること及び周圍の海洋關係——潮流の影響は日本の氣候殊に春夏秋冬の氣象の間に變化を多からしめ特色づけて居る。これは、日本に居ては、之に狙れて其特異たることを感ぜられないが、足一度海外に踏み出して見ると、日本ほど四季の變化の確然として居る國はまたとない、と痛感されるのである。

一体氣候の變化に富む、と云ふことが、其所に住む人々に、どのような影響を與へるか、といへば此種の氣候の間に住む國民をして聰明勤勉ならしむるのである。南洋等の熱帶地方は其高温なるよりしてには非ず氣温變化がない事が其所の文化を阻み、住民をして人の能く知るが如く、懶怠にして暗愚ならしむるのである。この關係は學者の等しく認めて居る事實で、一外人の如きは、暴風雨の襲來する國、即ち

氣候變化に富む國こそ文化の國であれと考へて居るほどである。今日世界文明國の分布を見れば、みな氣候變化に富む温帶地方に於てであることを事實上説明せらるゝのであらう。

また、これを他面より考ふれば、四季の變化の確然として來る日本であるが故に、國民は情操上此の四季の變化に、不斷の興味を有つて、不知不識、その氣品は高尚になり、文雅風流になつてゆくのである。肉慾の如きを極めてあつさりと考へさせるのも、美しき四季の變化の故でなければならぬと思ふ。

たとへば、平民文學、民衆藝術である俳句に「季」といふ現象の重んぜらるゝ之が詩形の必須要件である如きは獨り日本に於てのみ見得るものであつて、四季の變化が、一般住民の詩情をそゝり、國民の詩想は、季の變化のうちに、おのづから培はれてゆくのである。國民の感情は、天然の氣候によつて自然のうちに修養されてゆくのである。

また、日本人の自然物觀賞——天地有情の觀念、惹いては花鳥に對する觀賞の進歩の如きも、全く如上の關係と同じ影響によるものであると思ふ。

日本人は小學兒童でさへ多くの花鳥を知り、未だ實物を見ないものも、その名稱はこれを知つて、愛護觀賞の念を抱き居るのである。これを外國人に比ぶれば、其の所に格段の相異の在ることを知るのである、歐米人は自然の花鳥等に對する觀賞は比較的簡單であつて、其のリーダーなどを開いて見れば花鳥を記すこと極めて貧弱にして、日本人の目には不思議と映する位である。そして、僅かに知り、描

寫する花鳥は、これ之れを實用方面より取扱つて居るのである。日本人のような、風流氣分といふものは無いと言つても過言ではなからう。

日本人の風流趣味は、亦花鳥等を天然的に愛護觀賞せんとするのであつて、歐米人の如く花を温室に作り、鳥を籠に飼ひて樂むといふのではない。花を採ね鳥の音を聞かんが爲に山河を跋涉する位である。「手に取るなやはり野に置け蓮華草」といふ句は一面に此の考を歌つたもので、他面には之によりて別な人生的な教訓を寓して居る。此の思想即ち天地自然を愛し之を其まゝに詠嘆し又は之によりて複雑なる人事を描出する所は實に日本の文學の特性であらう。若くは萬葉の古歌より今日の詩歌に至るまで此の根柢の上に立つて居るのである。日本の文學より花鳥風月を取去れば、恐くは我が國の文學は滅ぶるであらう。文學既に然り一般藝術に於ても同様であつて美術の如き、泰西のものが人物本位であるに反して、日本のものは花鳥自然本位であつた。我が國の繪畫が文久二年、始めて巴里の博覽會に出品せられ續いて維納、フィラデルフィアの博覽會に出陳せられしが當時歐米美術家は日本美術を評して、「日本の繪畫は、人物——肉體美に就いては、全く奇怪ゴロズであつて、顧みるに足りないが、花鳥昆虫等の描寫にいたつては、微に入り細を穿ち非常に美しく、我々の羨望と賞讃を禁じ得ない所である」と、言つたと或る米國人の書物にあつたが、蓋し至言であつたと思ふ。

如上の花鳥觀賞の觀念は我が國民日常生活にまでもその影響を及ぼして居る。即ち、家の紋所の如き

は代表的のものである。即ち我が國の紋は多くはこの花鳥を以て表はされて居る。日本の紋の起源に就いて、或る外人の觀察に、多分宗教上のトテミズムより出たのであらう、と謂はれて居るが、これは皮相なる觀察であつて、自然觀賞の精神性情より起つたものであると思ふ。

我が國民は花鳥を以つて家紋とせるのみならず衣服の模様としても之が重なる種類である。美しき友禪は皆花鳥ではないか。之を外國人の線本位の模様などに比し自然觀賞の念に於て著しく優れて居るではないか。

此の他花鳥觀賞の最も民衆的となつたものは、榜標である。と、謂ふよりも、花鳥觀念といふものが最も民衆的であるが故に、榜標には花鳥が選まれるのであらう。

かく四季の變化に不斷の興味を有つて生活して來た日本人の、その自然觀賞の觀念の異つた現はれが、我が大和心の一方面ではあるまいか。大和心と朝日に匂ふ山櫻とは、對象的に扱はれたるものとしてより即ち朝日に匂ふ山櫻は、大和心の象徴と申すよりも、朝日に匂ふ山櫻を見て、美はしと感じ、嚴肅な心となる、その感じ、その心こそ、とりもなほさず大和心だと思ふ。

氣候の及ぼす關係影響としては、我が國が常に濕潤なる氣候を有することが日本人をして更に清潔を好む、といふ性情を有たしめたこと云ふことが出來得よう。日本人は此の如き氣候の下に住み、身體を清潔にして、不健康に對する正しい防禦としたのである。これは極めて自然な衛生法であつた。

そして、その生理的必要より擇まれたる、衛生法は、心理的にも矢張り同じきものでなければならなかつた。それが、宗教的本意識によつて行はれるにいたつて、所謂、淨め、被ひ、の儀式習俗が生まれたのであると思ふ。而して清潔を好むといふ精神は、更に秩序を立てる、といふ精神に相即するのである。たとへば、清潔を尙ぶドイツ國民が、同時に、秩序を立てる國民であるが如きを参考として見ることも出来よう。

四

次に地形が我が國民性に與へし影響を観察する。日本の國土は、海中の孤島である。この地形上よりの影響は、外部よりの侵略なく、たまたま外敵の侵入は有つても、天然の要害を利用して撃退することが出来たことの爲に、之が國民的自尊心を養ふ本となつたのである。これは恰も、西洋史に於て、外敵の侵略を受けること少く、外侮を蒙ること少なかつたが故に養はれたる、英國民の自立自尊の精神に譬ふることが出来る。そして、日本は更に英國よりも有利なる地位に在つたのである、即ち國が南北に長く連る故物産の變化に富み國民は其生産を以て獨立鎖國をなし得たのである。即ち軍備上、政治上のみの獨立に留まらず、經濟上に於ても、獨立性があつたことが、國民の獨立自尊心といふものを愈々根強くしたと信するのである。

我が國の地形が他方面に及ぼしたる影響を見るに、彼の武士の發達には我が國土が山嶽重疊して居る

と云ふことが餘程大なる影響を與へたやうである。

武士道の根本思想は上世より萌して居たとは歴史の傳ふる所であつて、今更記すまでもないが、所謂武士道の形式となつて表はれたるは源平對立以來、諸地方の豪族が其の地に據り部下を養ふにいたつて其の主従的關係をつくりたるに始まるのである。而して之が地形の影響が重大なる關係を有すると云ふのである。王朝の末源平對立の頃より、諸國の豪族は或は柵を設け館を構へ遂に城を築くに至りたるが、何れも皆山河の要害による地形的産物である。而して武士道は此等城寨を中心として發達したものであるから、地形と武士道との間には密接の關係がある。従つて地形上極めて有利なる地は、武士道の醸成には好適の地にして、たとへば、武士道精神の權化の如き觀のあつた、薩摩武士を見れば、彼の國の地形は、山嶽重疊にして天險を要して居たことが餘程大なる原因である。山岳重疊せる地形は獨り武士道の發達に要因となりしのみならず、我國民の宗教心の發露にも貢獻する姿があつた。元來、日本人は宗教心に強き國民であるとは言はれないのであるが、それにもかゝはらず、宗教心の相當發達して居るといふのは、日本の國土が高山に富めるが一つの原因をなして居ると思ふ。前の實驗心理學者の説によれば人類は大なる垂直物の下に立てば、必ず無意識に之を五尺の自己の小軀に比較して、そのものが自己よりも、遙かに雄大であるときに自己の様子を知り、其物に對し崇高の念を生し自己に嚴肅の念の湧出するものである。かゝる自覺こそ、やがて宗教的觀念となつて現はれるものである。たとへば、西洋寺

院の高く聳え立つ、彼のゴチック式の建築物などは、これと同じ關係に見らるべきものであらう。

我國の神社なり、寺院なりが高山の頂に立てらるゝことは、矢張り思想より出でたるものであつて我が高山が此等の建築物と共に我が國民の宗教心に培したことは蓋し想像に餘りあると思ふ。

五

以上述べ來つたるが如く、日本の國民性は、聰明にして勤勉、獨立自然の精神に富み、自然を愛し、物慾には恬淡に、そして忠義に深く、敬愛の念に豊かである、と謂ふことが出来るのであるが、それらの特性の發達には、天然的環境よりの影響が重大なる主成原因として居るのである。尤も此の時に上代の社會的環境の影響あることは勿論である。兎に角この比類なき日本の天然に養はれたる我が國民性の特性を認識尊重し之を誇と感ずることが國家の維持には最も緊要なることであつて、是が即ち又現代に危懼さるゝ外來の危険思想に對して、最も有力なる防衛であると信ずる、何となれば自ら高き見識を有する人は人の侮を受けず他の惡影響を受けざるものである。國民も亦同様であつて、一例として、支那は三千年來の帝制を棄て一朝にして共和制を現出せしめたれども、我國民はこれに對して殆んど痛痒を感じない。ロシアに過激主義が横溢しても餘り之を憂へぬ。如何なる故であらうか、これは我が國民が現在自國文化が彼に優越するを自認し衰殘の支那の事など顧みるに足らず、混亂のロシア何をかなすと云ふ態度下之に對するからである。

然るに、若し、英國の如き國が忽ちにして共和國となり、米國が過激主義を熱唱するにいたる日の來る、と假定して考へて見るに、果して其の日に、日本は、支那やロシアの轉變と、これを同じく看過することが出来るであらう。恐くは晏如たるを得ざるであらう。要するに他の思想に影響せらるや否やは懸つて其國民自己の識見の上にあらうと思ふ。されば吾國民が他の悪影響より免れんとせば須く自國固有文化の美と優とを認識して之を誇りとすることが實に今日の急務である。我等は此の自主的觀念があつてこそ初めて他の長を探つて我が短を補ふ餘裕を生ずるものである。我が國民よ、他國の思想に溺れる前に我國民固有の美風特性のあることを認識し之を誇とし高く自ら標示するを忘れてはならぬ。

菊

見渡せば小菊大菊咲き滿ちて

御園は黄金白金の國

田中久

雲 間 月

うきおもひばれやしぬらん雲間もる
月のおもわのこゝちよげなる

霞 中 花

山々は深く霞みぬさくら花
さき來にけりさ咲き匂ふらし